

CLUSTERPRO[®] X *for Windows*

PPガイド(COBOL)

2024.04.10
第08版

CLUSTERPRO

改版履歴

版数	改版日付	内 容
1	2012/08/10	PPガイドより分冊し、新規作成
2	2015/11/24	第 3 章 COBOL85 Pro ランタイム IFASPRO、IFASPRO/RDB、アプリケーション実行環境に関する記述を 削除 第 4 章 COBOL Enterprise Edition Server Runtime 追加
3	2018/2/16	・OCF21出荷停止に伴い - はじめに の適用範囲の製品を変更 - 第 1 章のライセンスポリシーをCOBOL EE用に変更 - 第 2 章～第 4 章削除 ・全体的にCOBOL Enterprise Edition関連の製品名称の表記見直し ・第5章 COBOL Enterprise Edition Runtimeに注意事項追記
4	2019/10/04	・CLUSTERPRO X 4.1を追加
5	2020/04/10	・CLUSTERPRO X 4.2を追加
6	2022/04/11	・CLUSTERPRO X 4.3/5.0を追加
7	2023/04/10	・CLUSTERPRO X 5.1を追加
8	2024/04/10	・CLUSTERPRO X 5.2を追加

© Copyright NEC Corporation 2012-2024. All rights reserved.

免責事項

本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいませぬ。

また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。

本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

商標情報

CLUSTERPRO® X は日本電気株式会社の登録商標です。

本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

その他のシステム名、社名、製品名等はそれぞれの会社の商標及び登録商標です。

目次

はじめに.....	i
対象読者と目的.....	i
適用範囲.....	i
CLUSTERPRO マニュアル体系.....	ii
本書の表記規則.....	iii
最新情報の入手先.....	iv
お問合せについて.....	iv
第 1 章 COBOL 製品のライセンスポリシー.....	1
ライセンスポリシー.....	1
第 2 章 COBOL Enterprise Edition Runtime.....	3
機能概要.....	3
機能範囲.....	3
動作環境.....	3
インストール手順.....	3
スクリプト作成の注意事項.....	3

はじめに

対象読者と目的

『CLUSTERPRO® PPガイド』は、クラスタシステムに関して、システムを構築する管理者、およびユーザサポートを行うシステムエンジニア、保守員を対象にしています。

本書では、CLUSTERPRO環境下での動作確認が取れたソフトウェアをご紹介します。ここで紹介するソフトウェアや設定例は、あくまで参考情報としてご提供するものであり、各ソフトウェアの動作保証をするものではありません。

適用範囲

本書は、以下の製品を対象としています。

- CLUSTERPRO X 5.2 for Windows
- CLUSTERPRO X 5.1 for Windows
- CLUSTERPRO X 5.0 for Windows
- CLUSTERPRO X 4.3 for Windows
- CLUSTERPRO X 4.2 for Windows
- CLUSTERPRO X 4.1 for Windows
- CLUSTERPRO X 4.0 for Windows
- CLUSTERPRO X 3.3 for Windows
- CLUSTERPRO X 3.2 for Windows

CLUSTERPRO マニュアル体系

CLUSTERPRO のマニュアルは、以下の 4 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X スタートアップガイド』 (Getting Started Guide)

すべてのユーザを対象読者とし、製品概要、動作環境、アップデート情報、既知の問題などについて記載します。

『CLUSTERPRO X インストール&設定ガイド』 (Install and Configuration Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアと、クラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO を使用したクラスタシステム導入から運用開始前までに必須の事項について説明します。実際にクラスタシステムを導入する際の順番に則して、CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの設計方法、CLUSTERPRO のインストールと設定手順、設定後の確認、運用開始前の評価方法について説明します。

『CLUSTERPRO X リファレンスガイド』 (Reference Guide)

管理者、および CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象とし、CLUSTERPRO の運用手順、各モジュールの機能説明およびトラブルシューティング情報等を記載します。『インストール&設定ガイド』を補完する役割を持ちます。

『CLUSTERPRO X メンテナンスガイド』 (Maintenance Guide)

管理者、および CLUSTERPRO を使用したクラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO のメンテナンス関連情報を記載します。

本書の表記規則

本書では、「注」および「重要」を以下のように表記します。

注： は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要： は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

関連情報： は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角かっこ	コマンド名の前後 画面に表示される語 (ダイアログ ボックス、メニューなど) の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライン中の [] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します。	<code>clpstat -s[-h host_name]</code>
モノスペースフォント (courier)	コマンド ライン、関数、パラメータ	<code>clpstat -s</code>
モノスペースフォント太字 (courier)	ユーザが実際にコマンドプロンプトから入力する値を示します。	以下を入力します。 <code>clpcl -s -a</code>
モノスペースフォント斜体 (courier)	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	<code>clpstat -s [-h host_name]</code>

さらに、本書では製品名称について以下の表記法を使用します。

表記	製品名称
COBOL Enterprise Edition	<ul style="list-style-type: none"> • COBOL Enterprise Edition • COBOL Compiler Enterprise Edition • COBOL Enterprise Edition Developer • COBOL Enterprise Edition Compiler
COBOL Enterprise Edition Runtime	<ul style="list-style-type: none"> • COBOL Runtime Enterprise Edition • COBOL Enterprise Edition Server Runtime • COBOL Enterprise Edition Runtime

最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下のWebサイトを参照してください。

<https://jpn.nec.com/clusterpro/>

お問合せについて

本書の COBOL 製品に関する記載内容の お問い合わせには、原則として CLUSTERPRO の保守契約と COBOL の保守契約が必要です。

COBOL 製品の障害発生時には、保守契約に則り、以下のNECサポートポータルからNECカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ・ NEC サポートポータル (<https://www.support.nec.co.jp/>)

第 1 章 COBOL 製品のライセンスポリシー

ライセンスポリシー

本書で説明する COBOL 製品は、インストール単位の CPU/Core ライセンスです。

クラスタ構成時には、現用系サーバ／待機系サーバにかかわらず、COBOL 製品がインストールされた環境を保持する数に割り当てられた CPU/Core の数に応じた COBOL 製品が必要です。

第 2 章 COBOL Enterprise Edition Runtime

機能概要

COBOL Enterprise Edition Runtime は、COBOL Enterprise Edition で作成した COBOL アプリケーションを動作させるために必要な PP 製品です。二重化システムにおける特別な機能はありませんが、現用系サーバと待機系サーバ各々のローカルディスクにインストールしてください。

機能範囲

二重化システム対応の特別な機能はありません。
また、マルチサーバには対応していません。
COBOL アプリケーション作成は、標準動作モードで実施してください。(SE 動作モードは不可) 組み合わせる関連製品も CLUSTERPRO 対応製品を選択してください。

動作環境

COBOL Enterprise Edition Runtime のバージョンによって、対象 OS が異なります。
対象 OS につきましては、COBOL Enterprise Edition Runtime のセットアップカードをご覧ください。

なお、本製品は以下の CLUSTERPRO バージョンに対応しています。

- CLUSTERPRO X 3.2 for Windows
- CLUSTERPRO X 3.3 for Windows
- CLUSTERPRO X 4.0 for Windows
- CLUSTERPRO X 4.1 for Windows
- CLUSTERPRO X 4.2 for Windows
- CLUSTERPRO X 4.3 for Windows
- CLUSTERPRO X 5.0 for Windows
- CLUSTERPRO X 5.1 for Windows
- CLUSTERPRO X 5.2 for Windows

インストール手順

インストールは、現用系サーバと待機系サーバ別々に、それぞれのローカルディスクにインストールします。インストール自体は、2 台のサーバにインストールすること以外は通常のインストールと同じです。

スクリプト作成の注意事項

スクリプトを作成する上で、COBOL Enterprise Edition Runtime に関する注意はありません。
なお、系切替により、ファイルなどの外部資産を更新中に、COBOL アプリケーションを強制終了したり、OS を再起動した場合、ファイルなどの外部資産が不正な状態となる場合があります。その場合、バックアップからファイルを復旧するなどの措置が必要となりますのでご注意ください。